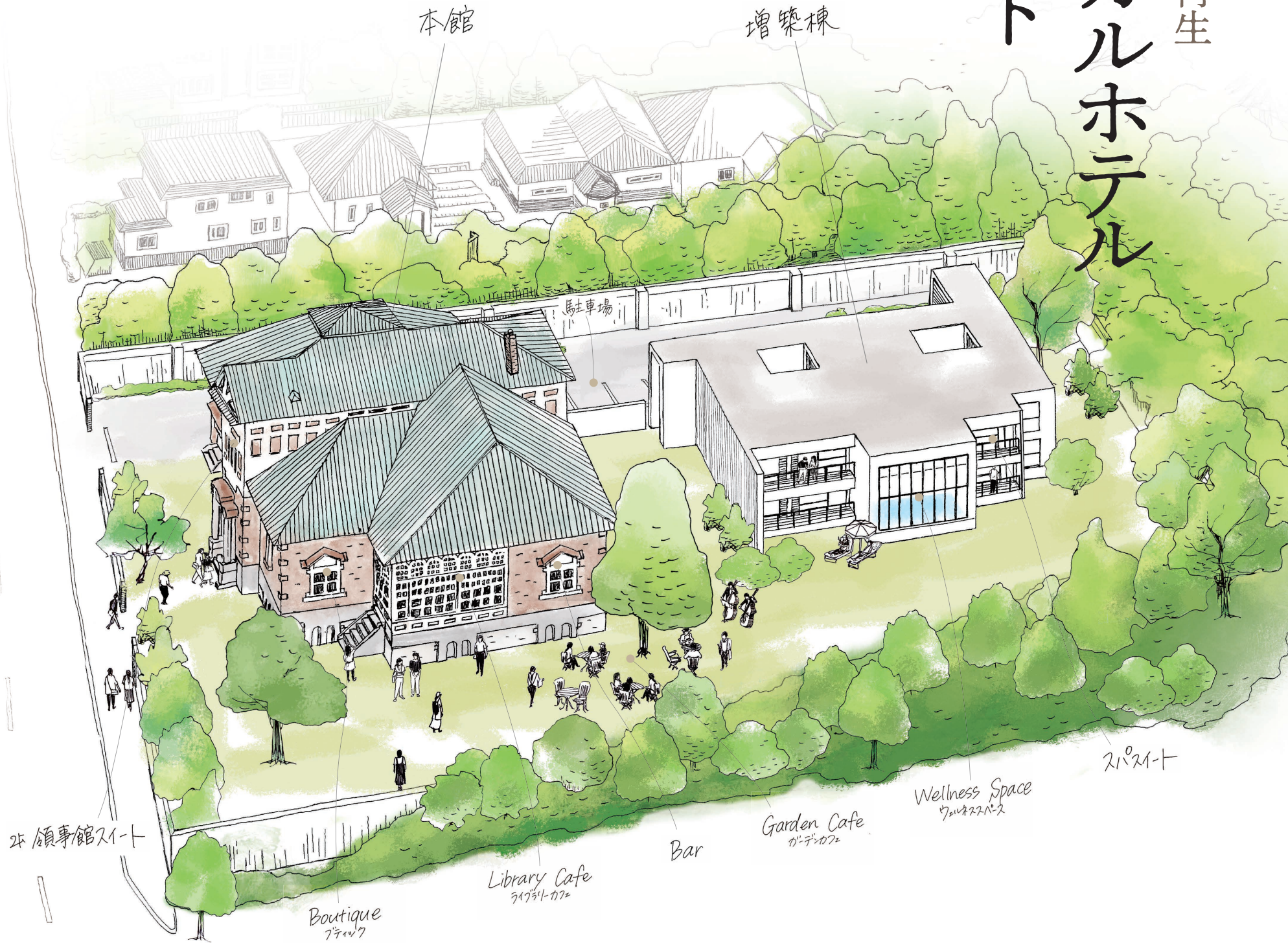




# 函館旧ロシア領事館再生 ヒストリカルホテル プロジェクト

本館

増築棟



## 施設全体の構成

本館2階に2室、増築棟に4室の計6室を有するヒストリカルホテルとする。本館1階までは、一般客に公開する。レストランは道南の食材を中心としたロシアン・クイジーヌ(ロシア料理のエッセンスを含むフレンチ)をメインとする。

ライブラリーカフェではロシア軽食ランチを営業時間を決めて提供する。この場で日ロ交流の歴史資料や写真を常設展示し、温暖な時期には庭園への広がりをもたせ屋外テーブルも設ける。個室においては小規模なパーティーまたは会食が可能である。

レストランとライブラリーカフェは別のスペースとする。

本館
1F ライブラリーカフェ ブティック レストラン Bar ホテルフロント
2F 宿泊ルーム2室(各94㎡以上) 事務所
庭園 ガーデンパーティー ガーデンカフェ
増築棟 2階建て 宿泊ルーム4室(各88㎡以上) ウェルネススペース

## 建物の持つ歴史的・文化的価値の保存活用

用いられる資源を出来るだけ使い、元の建物の資材より学びを得て、函館が再建した奉行所などを参考に、再建の経緯は映像や写真、また文章で記録していきたいと考える。また、現代の耐震補強技術を導入し、歴史的建造物の保存に努めたい。特に本館1階の歴史的・文化的価値を有する既存物に関しては可能な限り有効活用していく。

## 建物の持つ歴史的・文化的価値を生かす事業内容

開港以来、函館の街が果たしたロシアとの外交の歴史を色濃く伝える、旧ロシア領事館の建物の扉を開くのを一番の目的とする。

痛みの激しい建物を修復し、再び市民の方々と歴史を共有し、国内外からの観光客を受け入れるための観光資源としての活用を目指す。

在札幌ロシア連邦総領事館函館事務所との共同イベントなどを開催し、日ロ交流が開かれた場所への求心力を蘇らせる。また、例を挙げるならPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌)に参加のロシアからの若い演奏家たちとの夏毎の共同音楽イベントなども企画していきたい。

また、宿泊者へ夜毎のロシア映画等をBarプレイスで上映し、ロシア文化に親しむ機会を広げる。「霧の中のハリネズミ」、「ノスタルジア」、「黒い瞳」など。



「霧の中のハリネズミ」  
ユーリ・ノルシュテイン作品集

## 地域の賑わいの創出

現在も少なからずの観光客が門の外より佇まいを眺める場所になっている。元町から外国人墓地まで歩く中継点という位置を考える。この場所に風を通し、灯を灯し、昼に夜に港を見渡す函館らしい景色と、街にたゆたう時間の流れを提供する。

函館西部地区バル街への参加を目指す。

業務には多くの人材を必要とし、函館市に所縁のある方々の雇用を必須とする。歴史ある港町に暮らす市民の方々の気質とともに、函館の魅力を伝えていくことを目標とする。



## 周辺地域の景観や環境との調和

庭園の樹木はなるべく残し、駐車場を増築棟の裏側(敷地の南西側)に確保することで、景観との調和を維持することに努める。

増築棟の意匠は本館との調和を考えた外観とする。